

「世界のウチナーンチュ大会とお別れ会」

文責 久米野 萌子

15 日(土)は、琉球大学の世界のウチナーンチュ大会についてのアンケート回収を行う日でした。次の3つの会場に各々わかれて、回収を行いつつ、アンケートを書いている間に自分たちの研究のために、大会参加者にいろいろ質問をするというミッションです。会場は、セルラースタジアム(開会式、閉会式のあった場所)・コンベンションセンター・新都心周辺(県立美術館、博物館など)の3つです。私が行ったのが、新都心周辺だったので、そちら中心の日誌になります。新都心は、私と4年生の藤浪さんが担当していました。まず、午前中は沖縄県立博物館・美術館へ行きました。

ここでは、ウチナーンチュ大会開催期間中の特別展示として移民資料展が行われていました。この日は雨だったこともあり、屋内会場である県立博物館・美術館は比較的混みあっていました。建物に入って、エントランスホールにいた赤い紐のカードケース(海外参加者証)を提げている人たちを探して、アンケート記入をお願いしていきまし



た。私が声をかけた人のほとんどは、首にハイビスカスの花輪をかけたハワイからの参加者でした。たまに日本語を話せる人もいましたが、殆どの方が、Can I speak Japanese? と聞くと、English please. と言われてしまい、私のつたない英語で会話を試みることになりました。

ここで、私が話した方の中で印象に残った方や、エピソードを紹介します。一番長く話していただいたのが、ハワイからいらっしゃっていたご高齢の男性でした。この方は移民3世ですが、お連れ合いが日本出身の方だそうです、日本語もすごく上手に話していらっしゃいました。お2人とも沖縄にルーツはないそうですが、ハワイの周りの移民の方と一緒にこの大会に参加しているとのことでした。他にもこのような方はちらほらいらっしゃったことから、ハワイでは沖縄県人会と日本からの移民のコミュニティがとても強く結び付いていたり、その大部分が重なっているのではないかと感じました。実際、ハワイからの参加者は1,000人だと、皆さん自慢げにおっしゃっていました。この男性も含め、他にお話を聞いた方もそうだったのですが、「沖縄が好きだから」という理由も参加の動機となっているようです。記入していただいたアンケート項目で、「ウ

チナアンチュであるための条件はなんですか」という問いに対して、沖縄が好きであることを条件としてチェックする人も多かったように思います。海外移住者にとって、「ウチナアンチュである」というアイデンティティは単なる血の繋がりではなく、祖国（日本と言ってよいのか、沖縄に限定された祖国なのかはわかりませんが）と結びつく「よりどころ」なのではないでしょうか。

また、同じ男性の方に教えてもらったのですが、ハワイではKZ00（ケイズー）という、日系人のためのラジオ局があるそうです。他のハワイ移民の方も知っていたので、あちらでは結構有名なのではないかと思えます。

他に話を聞いた方の中で多かったのが、妻が沖縄系で、夫は現地の方だというケースです。また、ご自身が沖縄系でない日系の方でも、ハワイに住んでいると親戚の誰かしらに沖縄にルーツを持つ方がいらっしやるとか。また、どの方に聞いても、たいていの方が沖縄県人会の活動に参加されているとのことでした。I love “Eisa”. とおっしゃる現地の方も。

12 時頃に、一旦、記入してもらおう予備のアンケート用紙の補給のため、県立博物館・美術館の最寄り駅のおもろまち駅から奥武山公園（おうむやまこうえん）駅までゆいレールで行き、セルラースタジアムへ向かいました。ゆいレールの乗客にも、赤い紐のカードケースを提げた海外参加者がちらほら。皆さん、英語だったり、たまにスペイン語やポルトガル語で話していました。14 日の話ですが、一回声をかけた参加者がペルーから来た一団で、エスパニョールと言われた時はドキッとしました。大会には、スペイン語圏、ポルトガル語圏から来る人も大勢いらっしやるため、アンケートも日本語・英語と併せて4ヶ国語で書いてあります。

セルラースタジアムでアンケートを受け取った後、お昼ごはんを国際通りにあるお店で食べました。国際通りにも、やはり大会参加証を付けた人がちらほら。14 日の自由行動の日には、思い切って市場で大会参加者の方に声をかけ、いろいろお話をさせていただきました。そのうちの一人はアメリカ人女性の方で、お連れ合いのご両親が沖縄出身だということでした。夫自身は沖縄に住んだことはなくても、日本とのつながりの寄る辺としてアメリカの沖縄県人会の活動に熱心に参加しているとのことでした。その場には、この女性の姑にあたる女性もいらっしやったのですが、「息子は沖縄に住んだこ



とがないからウチナーンチュではない」とおっしゃっていたのがとても興味深い点でした。私は、沖縄出身の人の血を引いていればウチナーンチュだと思っていたのですが、人によって「ウチナーンチュとは誰か」についての認識はバラバラなようです。この同質でない認識というのが、エスニック・アイデンティティの難しい点であると思います。

お昼ごはんは、海ぶどうを食べたことがなかったので、海鮮海ぶどう丼を食べました。海ぶどう自体は、ほんのり磯の香りがするだけで、ぷつぷつとした食感を楽しむものだそうです。市場では、新商品として「海ぶどうちんすこう」もありました。なんでもちんすこうになるんですね！

その後は、藤浪さんと別れて、私は市民館でやっていたNHK のど自慢の会場へ行きました。ウチナーンチュ大会イベント一覧に載っていたので行ってみたのですが、会場で聞いてみるとNHK 側は大会とは特に関係ないとのこと。私の見た範囲では、大会参加者も数人しかいなかったのですが、3人のアメリカ在住の方にお話を聞くことができました。その3人のうち、一番年配の方のお連れ合いの友達がのど自慢に出るから、応援に来たとのこと。アメリカに住んでいても、日本との繋がりはしっかりあるようです。

夕方には、一旦古島駅に集合して、沖縄国際大学へ向かいました。今まで平和学習などでとてもお世話になった沖縄国際大学の澤田ゼミの皆さんとの交流会があったからです。交流会の前に、沖縄国際大学に着くと、ヘリ墜落事件の跡地で「米軍ヘリの沖縄国際大学墜落事件」について、学生



の方にお話ししていただきました。写真で見てとれるように、ヘリ墜落で燃えた木が今

はモニュメントとして残っています。ヘリの破片は何百メートルも飛び散ったそうですが、見えての通り、周りはマンションなど住宅街です。実際に、吹き飛んだ破片がマンションの窓ガラスを割って入り、ちょっと前まで子供が寝ていた所に突き刺さったそうです。この事件の存在を、私たちは沖縄米軍基地



問題を考える時にどれだけ心にとめていたでしょうか。私も恥ずかしながら今まで、どこか遠くの出来事のように思っていました。このお話を聞いて、沖縄の人々の生活が脅かされていることを肌で感じました。基地問題は、沖縄の人々にとって、急務な問題なのだとは私たちは強く認識する必要があります。

その後、交流会は澤田ゼミの皆さんがごはんからレクリエーションからいろいろ準備していただいていた、とても楽しく過ごすことができました。とても有意義な時間でした。皆さん、とてもエネルギッシュで、圧倒された反面、私にとって良い刺激となりました。本当に感謝しています。